



表現と心理的レジリエンス

キーワード

現代美術、ソーシャリーエンゲージドアート、アートセラピー、ソーシャルワーク、社会彫刻、社会実践の倫理、コミュニティアート、マインドフルネス

研究内容

絵や形に表現することで気持ちが落ち着いた、話すことが苦手だけれど表現を通じて他人に自分の気持ちを伝えることができたという経験のある人は少なくありません。芸術療法の分野では、自分の内面を外に向けて表す「表現」という行為が精神的にポジティブな効果をもたらすことが研究されています。その可能性を追求し、アートとソーシャルワーク双方のアプローチから、表現を用いた心理的レジリエンスを高めるプログラムを研究しています。また、プログラムを実践するなかで、社会と関わる芸術実践の倫理を考察し、さまざまなバックグラウンドの人と対応できるスキルを持ち、広い視野を備えたファシリテーターの養成を目指しています。



こどものためのワークショップ「こどもかいぎ わたしたちでつくるまち」2020年8月アートプログラム研究（トナリプロジェクト）としてアーツ千代田3331で実施

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・曾根博美「Social Service, Art, and Community Engagement：ロサンゼルスにおける社会福祉供給者からみた実践的アート・プログラム研究」第20回日本アートマネジメント学会大会予稿集、2018
- ・曾根博美「アートを基盤とした複合セラピーの研究」アートミーツケア学会オンラインジャーナル、vol.11 p.31-54、2020
- ・曾根博美「造形表現プログラムによる子どもと子育て支援の実践的研究」東京家政大学生生活科学研究報告第43集、p.1-5、2020

社会連携・産学連携の可能性

まちづくり、コミュニティビルディングを目的として、特定のコミュニティのニーズに応じたアートプログラムの提供、人材養成、グループを対象とするアートとマインドフルネスのワークショップを提供できます。